

熊本で働く人に聞いてみた

# 県外就職 したかったオレが 県内就職 を決めたワケ



「都会で働きたい!」「都会に行けば何か変わるかも!」。そう考えている方は少なくないでしょう。ここでは、都会で働くことに魅力を感じ、一度は県外での就職を考えながらも、高校を卒業後、熊本県立高等技術専門校で専門的な知識や技術を身に付け、地元熊本での就職を選んだ先輩たちの声を紹介します。



case.01

有限会社西山設備工業  
芹川 頼也 さん

修了科

電気配管システム科

訓練内容

電気工事および管・水道  
施設・住宅設備の工事

## 被災した益城町を見て変わった夢。熊本地震からの復興に役立ちたい

山鹿市出身の芹川頼也さん(20)＝熊本市＝は現在、益城町の住宅設備工事会社で、水道設備工事の仕事をしています。以前は「山に囲まれた環境から飛び出して、都会に行きたい!」という夢を持っていたそう。しかし熊本地震を経験し、その思いが変わったと話します。

当時、高校の建設工業科で学んでいた芹川さんは、益城町の悲惨な状況にとっても心を痛めました。同時に、自らが学ぶ技術が益城町の復興に

役立つのではないかという思いが芽生えたといいます。高校卒業後は熊本県立高等技術専門校でさらに学びを深め、今年4月から益城町などの住宅の新築工事に携わっています。「仮設住宅から、新築の家に引っ越される時に『立派に作ってくださいありがとうございます』と感謝されると、とてもやりがいを感じます」

休日は福岡にマイカーでショッピングに行くことも。「免許を取った後はクルマでいるんなところに

行けるので、都会志向は消えちゃいましたね」と笑います。



case.02

マコト建設株式会社  
本田 勇太郎 さん

修了科

総合建築科

訓練内容

建築大工

## オン・オフ充実させられる心の余裕。慣れ親しんだ環境だからこそ!

「実は、関西に就職したかったんです」と話すのは、建築現場で働く本田勇太郎さん(21)＝上益城郡御船町。熊本地震の際、ブロック撤去などのボランティア活動に携わった本田さんは、関西から来たボランティアスタッフと意気投合しました。彼らのバイタリティーあふれる行動力や、大変な状況でも明るさを忘れない姿に好感を持ち、「関西に就職したら楽しいんじゃないかな」と考えるようになりました。

一方で、仕事に打ち込むためには「自分が

自然体でいられる環境が必要」という思いもあり、悩みに悩んだ結果、就職先を熊本の企業に決めました。「休日に学生時代の仲間と仕事の話をしたり、花岡山に夜景を見に行ったりしています。ホッとリラックスする時間があるからこそ、仕事も全力投球できているのかな」

母親と2人暮らしの本田さんは「就職してから、生活費を家に入れていました」。母親や自分に甘えることなく、オンとオフどちらも充実させることができる心の余裕は、慣れ

親しんだ熊本の環境だからこそ生まれると話します。



## 地元で生き生きと働く 自分が輝けるステージを探して

熊本県立高等技術専門校  
電気配管システム科指導員 橋元尚彦 先生

熊本県立高等技術専門校の平成31年3月の卒業生は全員、県内の企業に就職しました。もちろん皆が皆、最初から地元就職を決めていたわけではありません。学校の研修等で指導に訪れた県内企業の代表や先輩社員(OB)との交流によっ

て、熊本で働く、暮らす魅力に気付いたことが、地元就職を決める大きなきっかけになったと思われます。

修了生は学んだスキルや知識を生かし、自動車関連、建築関連、小売業などで生き生きと働いています。若い人が地元で活躍することは熊本の発展を意味します。そうした将来を担う人材育成に、私たちは積極的

に取り組んでいきたいと考えています。これから社会に出る若い人にもぜひ、地元で自分が輝けるステージを見つけてほしいですね。

熊本県立高等技術専門校  
熊本市南区幸田1-4-1  
☎096-378-0121

